

2010年11月7日

会員・関係 各位

特定非営利活動法人 KHJ 香川県オリーブの会

連絡先 TEL・FAX 087-843-9877 (川井)

ホームページ <http://khj-olive.com/>



紅葉の美しい季節となりました。今年は猛暑であった分、紅葉が鮮やかなそうです。苦勞した程、その喜びも大きいという事でしょうか。

11月の月例会を下記のとおり開催いたしますので御案内申し上げます。

第101回月例会ご案内

1) 日時 11月28日(日)

13:00~13:30 受付

13:30~13:40 報告・連絡

13:40~15:00 テーマ「ひきこもりからの新たな旅立ち」

講師 NPO 法人グローバル・シップスこうべ

代表 森下 徹 氏

体験者 2名予定

15:00~15:15 休憩

15:15~16:30 グループ別話し合い(体験発表者参加)

2) 場所 ㊟ 生涯学習センターまなびCAN (高松市片原町11-1、琴電片原町駅近く)

TEL 087-811-6222

3) 参加費 会員: 1家族 1000円 非会員: 1家族 1500円

【今後の月例会】

○ 12月19日(日) 香川県社会福祉総合センター 6F (13:30~16:30)

「ひきこもり支援講演会&若者トーク」(予定)

【一部】13:30~15:00 テーマ「子ども・若者育成支援推進法から見た支援とは！」

講師 情報センターISIS ネットワーク代表

NPO 法人京都オレンジの会 理事

山田 孝明 氏

【二部】15:15～16:30 「今 若者たちが語る」

体験者 2～3名予定

○ 2011年1月23日(日) 香川県社会福祉総合センター 6F (13:30～16:30)

【居場所活動予定】

- 10月31日(日) 第7回運営委員会 (13:30～16:30)
- 11月7日(日) (13:30～16:00) ・ 20日(土) (13:30～16:00)
ポパイの会・パソコン教室 (指導 森下氏・井上氏)
- 11月27日(土) 第8回運営委員会 (13:30～16:00)
- 11月6日(土) 松田勝先生 個人カウンセリング (9:00～13:00)

【ポパイの会(若者グループ)から】

11月から居場所での若者指導を森下氏(支援員)・井上氏(主にパソコン指導)に交代します。部屋も机・椅子が少しずつ揃えられ、11月1日にはフレッツ・光の工事が行われました。ネットの利用はもちろん、若者自身の気持ちを一行でもいいから文章にして、お互いメール交換ができるようになればいいなと思っています。興味があれば一度見学してみませんか。お待ちしております。(独法)福祉医療機構 地域活動支援事業

【前回の月例会(10月24日(日)より】^注 一部 概略

《ひきこもり回復プログラム 3》

テーマ「無言の子への働きかけ」

体験をとおして考える

国立大学院生 T・K氏



自己紹介から始まった。今、大学院一年生で28才で入学し現在29才です。演題にあるようにひきこもり体験者です。テーマ「無言の子への働きかけ」とありますが、僕は無言であったわけではありません。オンラインシステムへの依存というひきこもりの分類に入る特殊な例であったと考えています。主な経歴ですが、高校中退、東京の専門学校を卒業後、先生の紹介で音楽関係の仕事に1年半就いたあと、21才でひきこもった。香川県へ帰ってきて放送大学へ入学し、27才で卒業した。そして東京へ行って産業カウンセラーの資格を取った。

小さい時から説明していくと、両親は公務員。父は厳格で亭主関白、母は父の言いなりになっていたが優しかった。姉一人、妹一人の三人姉弟。学校時代、小学校では虐められていた。休みがちであるが行っていた。中学校では運動部に入ったが強烈に厳しかった。体罰は普通で、2・3年の時、部活の先生が担任となった。初め虐めは無かったが、からかい等より虐めが始まった。原因は何かわからないが2年生の時体育館で一人残されて午後6～9時まで立たされ、殴る蹴るされた。3年生の時進学問題で希望校に行きたかったが担任に「お前の実力で行けるはずないわ」と言われた。

高校に入って義務教育でないこともあって緊張の糸が切れた。クラスは荒れていた。その中で勉強するのに疑問を抱き始めた。半年で不登校になった。親の顔があるから行ってくれと言われた。行けたの

は体育祭や文化祭・修学旅行等のイベントの時。修学旅行は北海道でスキーが得意であったのでそれだけが楽しみで行った。親は自分の前で子育てが間違っていたと泣いた。俺を生んだのが間違いだ、ほっといてくれと思った。高2の終わりに退学した。退学届けを出した時、両親が「終わったな」「楽になったな」と言った。「楽になったよ」と返した。3年生になって少し焦った。母親が進学先を見つけてきたが、決めるのは自分でしたいという気持ちがあった。小さき時からピアノをしていたので音楽の道があるぞと思い東京の音楽の専門学校へ入学した。卒業後音楽関係の仕事をする会社へ就職した。その頃からMMORPG(多人数同時参加型のオンラインゲーム)にのめり込んでいった。ゲームは今自分が止めたら人に迷惑を懸けるから止められないという所があった。その時20才で会社の仕事に将来が見えてこなかったし、パソコン関係の仕事がしたいという思いもあり、会社を辞めた。その後、昼夜逆転の生活でひきこもり外へ出るのはコンビニか髪を切りにいくこと位であった。半年後母親から香川へ帰らないかと話があった。東京の部屋はゲームが出来る安心の居場所であった。母親に伝えるとゲームが出来る環境を造ってくれた。そして車で迎えに来てくれて2年振りに親と会い、香川県へ帰ってきた。帰ってきた時、両親と一つだけ約束した。夕食を一緒に食べることであった。親は何も聞いてこなかった。

23才になり同級生は会社へ就職し、自分の中であせり、劣等感がのし上がってきて親に相談した。母親に松田先生に会うように勧められた。その時は他人には会いたくなかったが、1カ月経って会ってみることにした。ポレポレ農園を紹介され、半年間通った。とても友好的で後ろめたさを感じさせない空間であった。昼間は農園、夜はゲームと時間を設定出来るようになった。そこで自分が行ける場所を考えた。心理学を学ぶこと、カウンセラーになることを考えた。臨床心理士になるには大学卒業、大学院2年間ではじめて受験資格を得ることが出来る。23才の今から数えて31才で取れる。松田先生より放送大学を勧められた。放送大学を調べて学費が安いことも知り、心理学をするにはこれしかないと言った。やる事が出来たのは他にすることがなかったから、親が何も言わなかったから。学校の教科も目一杯取った。自分に出来ることはないかと松田先生に聞きに行った。産業カウンセラー・キャリアカウンセラーを勧められた。香川で受けるより東京で受けることが質が良い事を知り、親に頼んで東京へ行かせて貰った。ひきこもりの生活は変わりなかったが、産業カウンセラーの講座へは行って、大学の勉強もしていた。1月産業カウンセラーの試験に受かった。キャリアカウンセラーの方は試験の日休んで失格となった。東京ですることなくなり、親も帰ってこいと言うので、大学院の受験を控えていたので帰ることにした。自分でインターネットで大学院を調べ、受験した。(ここにはオンラインゲームのひきこもりの研究をした人がいると聞いた。)大学院は英語必修なので必死で勉強した。今、受かって大学院へ行っています。ひどい親だと思ったことも恨んだこともあったが、自分にとって親は厳しくもあり、優しい存在である。ひきこもりには僕はなるべくしてなつたと実感している。

完

質疑応答：

- 臨床心理士を希望したのは：第一の動機として何でひきこもりになったのだろうと自分を知らなかった。それを考えた上で第二の動機として松田先生ですね。どのようなしたら人にカウンセリングが出来るのだろうと考えた。
- 松田先生に会うのを最初は断ったのに次に自分の方から会いたいという心境の変化は：精神科医に一度掛かったが社会不安障害と診断されパニック障害もあるかなと言われ、他人に相談してどうかなるものではないと思ったので断った。会う切っ掛けになったのはオンラインゲームを続けているとその中の関わっている人も変わっていく。パソコンにそういう仲間がいたから僕も何かしたいという焦りが出てきた。それと両親が何も言わない無理強いして会わせなかったことで会いたいと

いう気持ちになった。

- ひきこもりからの第一歩としてポレポレ農園が位置付けられているが、ポレポレ農園から就労につながるのは無理と思うが：早い段階では無理と思う。その子自身が何かしたいと思う気持ちがなければ途中でダウンする。自分から決めたことでなければ出来ない。

(文責 加藤)

【第4回KHJ四国ブロック会議報告】 里副理事長より

去る10月16日(土)ブロック会議が愛媛県で開催され、香川、徳島、高知、愛媛と四国を一巡したことになった。

会場は愛媛県身体障害者福祉センター(松山市道後町)。

出席者は各県の会長、副会長、愛媛は記録担当の澤田前会長の奥様も出席され、お茶の準備などもして頂いた。途中からこまどりの会顧問の佐野氏(NPO法人びあ理事長 統合失調症患者)が加わり計10名となった。



☆主に現状について：月例会参加者数は香川と高知が20~25名位、徳島・愛媛が10~15名位、通常月例会案内数は香川80~90通(その内メール送信10件)、高知100~125通、徳島40~45通、愛媛35通(年会費なし)

月例会々場費有料：香川のみ有料(予約は1ヵ月前)、他の3県は無料、**香川が一番遅れている。**

駐車料金：香川のみ有料、他の3県は無料。**香川が一番遅れている。**

居場所の有無：香川・高知有り、徳島・愛媛無し。

父親の会の有無：香川・父親の集い有り、愛媛・親父の会有り。徳島・高知無し。

ひきこもり支援相談士の人数：香川・1名、愛媛・5名、徳島・高知は0と思う。

☆ひきこもり地域支援センターについて：高知(家族サロンを併設したのが、相談窓口につながりやすくしていると思う。)・徳島は設置、愛媛は8月に県知事宛の要望書を県保健福祉部長・保健衛生局長に提出(公明党 山本博司参議・県議2名同席、会長・副会長)。**香川が一番遅れている。**

☆連絡協議会の開催について：高知 5~6回/年 開催、徳島は6ヵ月過ぎたが開催されていない、香川ひきこもり対策チーム会議を開催。

☆ひきこもりだった若者の働ける場所作りについて：子の高年齢化、親の高齢化により、このままではいけないと思うので、四国のKHJが協力して働き場所を作ってはどうかと松田先生からの提案を受け、会長、副会長がどのように考えているのか次のような意見が出された。
・採算ベースにのるようなもので当事者の生活設計ができる。
・生きづらい人たちの為の就労場所。
・入口を狭くすると選択肢が無くなってしまう。
・グループホーム兼仕事場が連携したような形を考えている。
・国、県の助成金がなければ難しいと思う。
・ひきこもりの子を雇ってくれる中小企業を県に頼んでみる。
・就労よりひきこもりの子が勉強する場が必要ではないか、社会勉強であったり、文学の勉強であったり、居場所を兼ねて勉強する。
・すぐ就労に結びつけるのではない。
・今までの考えをゼロにして考えてみる、どういう就労形態、生活形態があるのかなど。

時間の関係で、具体的な話し合いまでには至らなかったが、場所作りの趣旨はよくわかったし、必要であると思う。ひきこもりについて県知事の理解が一番あり、親の会も活発に活動している高知県に期待することにし、その場合三県が協力できるところは協力していこうという意見もあった。

以上